



国家観と人間の基本的ありかた

Misao ドリアンさんが原発の問題について気付いた経緯を伺いたいと思います。

助川 チェルノブイリ原発事故は大変な衝撃でした。あの事故をきっかけに、原発の問題に向き合っていかなければいけないとみんな思ったはずです。ただ、自分の場合はそれ以前に、自分の国家観や世界観というものがあります。一人ひとりが人間として生を享受できる、やりきることが基本ではないか。それをみんなで追求した上で見えてくる枠組みであったり空気というものが、社会だったり国家だったりすると思っています。

しかし実際にはそうではなく、「国がこう決めたのだからお前ら従え」ということが多いわけです。チェルノブイリ原発もそうだし、福島第一原発もそうですけど、あんな事故が起きてしまい、結果的にたくさんの人が泣き寝入りしている。今、被災者の声が出てこないからといって問題が消えたわけでも何でもなくて、みんなの声が出にくい状況になっているだけです。恣意的な忘却を政府がやらかそうとしている。

福島第一原発の事故は、あの地域に住む人々にとって、あるいは私たちにとって、どんな影響を与え、そして、どんな影響を与え続けるのかと

掘げよう！脱原発の輪

NO NUKES! human chains vol.04

ゲスト **ドリアン助川** 作家 聞き手：Misao Redwolf（首都圏反原発連合）

NO NUKES! human chains vol.vol.03 のゲスト、落合恵子さんからのご紹介です。

福島原発事故——恣意的な忘却を政府がやらかそうとしている

いうことは、総論で語ることではないですね。その道を自分も歩んで着実に放射線量も測って行って、それを毎年やって、そして、そこに住む人々と言葉を交わしていく。一人ひとりと向き合っていく。これ以外の方法は自分にはなかったですね。その集大成が、新著の『線量計と奥の細道』なんです。

新著『線量計と奥の細道』

Misao 2012年夏、50歳の時に、奥の細道のルートを線量計をもって自転車で行った。旅の道中で、特に心に残っていることを教えてください。

助川 福島の養護施設で、知的障害に加えて親からの虐待や育児放棄などの苦しみがあった子たちの面倒をみている学園があるんですよ。その子たちが寝泊まりもしているところが、強烈な線量にさらされて、外に出ることもできない、エアコンも使えない。食べられるものも制限されて、猛暑に苦しんでいる。しかし、その学園が移転することもできない。そこにいて、その子たち一人ひとりの人格とか人権がまったく認められていないのが、この社会の一部なんだと実感しました。人権という言葉はやたら出てくるし、簡単な言葉になってしまっているのですが、それが失われることがいかに酷いことなのかということを痛感しました。

ことごとく大人が腐っているなど痛感したのが石巻で、この旅のひとつのピークでした。石巻の小学校なんですけど、津波のときに火災がおきて校舎が燃えて真っ黒く焦げた校舎があるんです。それが1年半ほったらかしにされていて、まわりは津波にのまれて荒地のようになってい

る。石巻の状況も全体的に酷かったんで、重い気分のまま自転車をこいでそこに行ったら、焼け焦げた校舎の前で小学校2〜3年生の子どもたちが、ユニフォームを着て野球をやっているんですね。それまで、この旅で泣いたことは一回もなかったのに涙が出てきましたね。

復興のために世界中から集まった、義援金の財源の分配がありますよね。これには優先順位が必要で、1年半経っても行き届かないところはあるでしょう。求められるものから優先的にやっていくのが道理ですから。でもさ、なんで被災地に集まってきたお金から「もんじゅ」に40億を出すの？ 優先順位として「もんじゅ」が先で、この子たちはほったらかし？ 焼け焦げた校舎に幌をかけるわけでもなくて。この子たちにどんな未来を作っていきたいのか、その視点がまったく欠けている国なんだと感じました。



旅をすることで見えてくるものがある

助川 この次は、被ばく地の農家の小説を書こうと思っているんです。ボクは仕事があまり早くないので、口約束だけで終わっているものもあるんです。もちろん、約束したことはやっているんですけど。だけど、あくまでも個人の生活に目を向けて、個人の感覚で、被ばく地の農家の小説を書くことは、自分で決めていることなんです。モデルになった農家に嫌がらせがある可能性があるんで、地名ははっきりさせませんが、被ばく



NO NUKES! ENERGY AUTONOMY!



インタビュー全文はこちらでご覧いただけます
<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11391>

した農村地帯ということは、もちろんはっきりさせて書こうと思っています。

Misao 奥の細道の旅からつながるテーマですね。『線量計と奥の細道』について、メッセージがあればお聞かせください。

助川 こう言っては語弊がありますが、でもあえて言います。旅をすることで、見えてくるものがあるんですね。なにもそんなガチガチに原発のことを考えて、頭をいっぱいにすることもなくて、被ばくして農業を辞めてしまった人たちの一人にでもいいから会いにいつてみよう、あるいは「たらちね」のがんばっている人に会いにいつてみようとか、何かひとつ目標を作って。あとは別にいいんですよ、福島のおいしい酒を飲みに行こうで。

そういう旅を毎年1回でも2回でもやっていると、自分の中の大きな柱になってきて、一人ひとりが幸せになるためにはどうしたらいいんだろうという思考にも結びつきます。ぼくは50歳のときにあの4か月にわたる旅をして、とてもよかったんですね。やはり、行かなければわからないこと、見えないことはいっぱいあるし、そこで見えてくる自分の可能性というものもあるわけです。だから、私たちが何か問題を提起したいと感じることがあるときには、その場所に行ってみるべきだと思います。

次回予告 NO NUKES! human chains vol.05 (2018年12月号掲載)
このインタビュー・シリーズでは、ゲストのかたに次のゲストをご紹介します。ドリアン助川さんからは、原発メーカー訴訟弁護団共同代表の島昭宏さんをご紹介します。

On The Road — Voice —

2012年3月から続く金曜官邸前抗議に参加する人たちの思いはさまざま。そのとき、どんな気持ちでいて、何を感じたのか、その声をご紹介します。



難しいね。続けることは大事だと思う。

2015年1月23日 50代女性・会社員

Q. 抗議への参加は何回目ですか？

A. 最初から来てる、ここ最近では月1。今年になってからは今日が最初です。

Q. 原発問題に関心を持ち始めた時期ときっかけを教えてください。

A. きっかけはチェルノブイリ事故の時、30年前ごろで、私が20代の時だったわ。(原発に反対している人には)そういう人が今も多い。その時にもっと頑張れば良かったと思っている人は多いの。みんな忙しいのでなかなか(抗議の場に)これないのも分かる。難しいね。続けることは大事だと思う。今すぐ何かが変わるということは、デモでは起こらないと思う。香港でもあれだけのこと(2014年 香港民主化デモ)をやっていたけども変わらない。それでも続けなきゃならないと向こうの人たちも思っているだろう。でも、香港ではあれだけの人が集まるし、官邸前もあれだけ集まったじゃないですか、あのときはそのままもっと何かが起きると思ってました。でも大きなメディアは無視をしたら、何とも言えないところはあ

WEB サイト <http://coalitionagainstnukes.jp/interview/> に掲載したのから抜粋しました

Q. ここに来て良かったなと思うことはなんですか？

A. 自己満足かな。来て「なんかやってるぞ」という意識で来てる。SNSとかで「来てますよ」と言っても、「いいね」はつくけど、一緒に来てくれる人はいないので、来てるのは昔からのつながり(の人)。だけど気持ちはあるけど参加しない人は多いと思うから少しでも(参加したい)。同じ意見の人と話していてもダメで、違う意見の人と話した方が良い。とはいえ、若い人は増えてると思う。

Q. 政治を動かすアイデアで例えば、デモをするとか、リーフレットを配布するみたいなことがあれば教えてください。

A. デモにはなるべく参加するようにしてる。リーフをまくのも手伝うようにしてる。(こういった活動を)普通の生活のメインにはもってこれない、そういう人が出来ることを考えるしかないかな。関心を持たないことが一番まずいよね。

ご協力ありがとうございました！

Walk and Talk it 忘れ去られる事を望む人々への抵抗——ベアソンズ『ラッパーの葬式』



今年の7/6、オウム真理教元幹部7人の死刑執行が同日にされ、TV番組では近代以前の「公開処刑」のように執行の度に顔写真の上にシールが貼られていった。地下鉄サリン事件が1995年3月だったから、10代後半の世代では、全く知らなかった、という人も多いだろう。この世代の人から「福島第一原発事故」の頃は小学生でよく覚えていない、という声を聞いたこともある。

今年2月にライブ録音されたベアソンズの『ラッパーの葬式』(『かったいい音楽が聴ける盤』収録)でダース・レイダーは即興で言葉を吐く。
【英語の奴らにはわかんねえだつてな／あいつらは

Play, Play, Playだけで遊んでるだけだろ／日本語ではPlayは再生なんだよ／再び生きる／日本語ではレコードをかければラッパーは再生するんだ／勝手に殺すんじゃないよ／俺たちだったらいつでも目の前に蘇らせることができるんだ／勝手に殺すな／勝手に止めるな／勝手に終わった事にするな】

同日7人の死刑執行も、福島第一原発事故も、真意を、真相を追究されて欲しくない人々がいる。Playボタンを押そう。再生しよう。記憶しよう。ソフトはネットに、図書館にあふれている。なかった事にしたい、忘れ去られる事を望む人々に、抵抗していこう。(TH)

『線量計と奥の細道』

ドリアン助川 著 (幻戯書房・定価2200円＋税)

本当はどれくらい被曝したのか。人々の暮らしはどんな変化を強いられたのか。原発事故の翌年、線量計を携え、夜は赤提灯を探しつつ、奥の細道の全行程を主に自転車によって踏破したドリアン助川の旅の記録。2016年までの線量の定点観測も含め、もはやメディアには出にくい福島や栃木の現実が語られている。



編集後記

自民党総裁選は安倍3選となってしまいました。安倍内閣である限り原発は推進される、脱原発を望む多くの人々は考えています。安倍一強でかつての姿を失い劣化した自民党。圧倒的多数の脱原発の国民世論が見えないのか。

福島第一原発のトリチウム汚染水の海洋放出について、福島県漁連が反対の意思を表明しています。安倍首相の「アンダーコントロール」発言は間違っています。原発事故の収束ができないのに原発推進をする安倍政権。毎週金曜、官邸前に集まり抗議しましょう！ 再稼働反対！